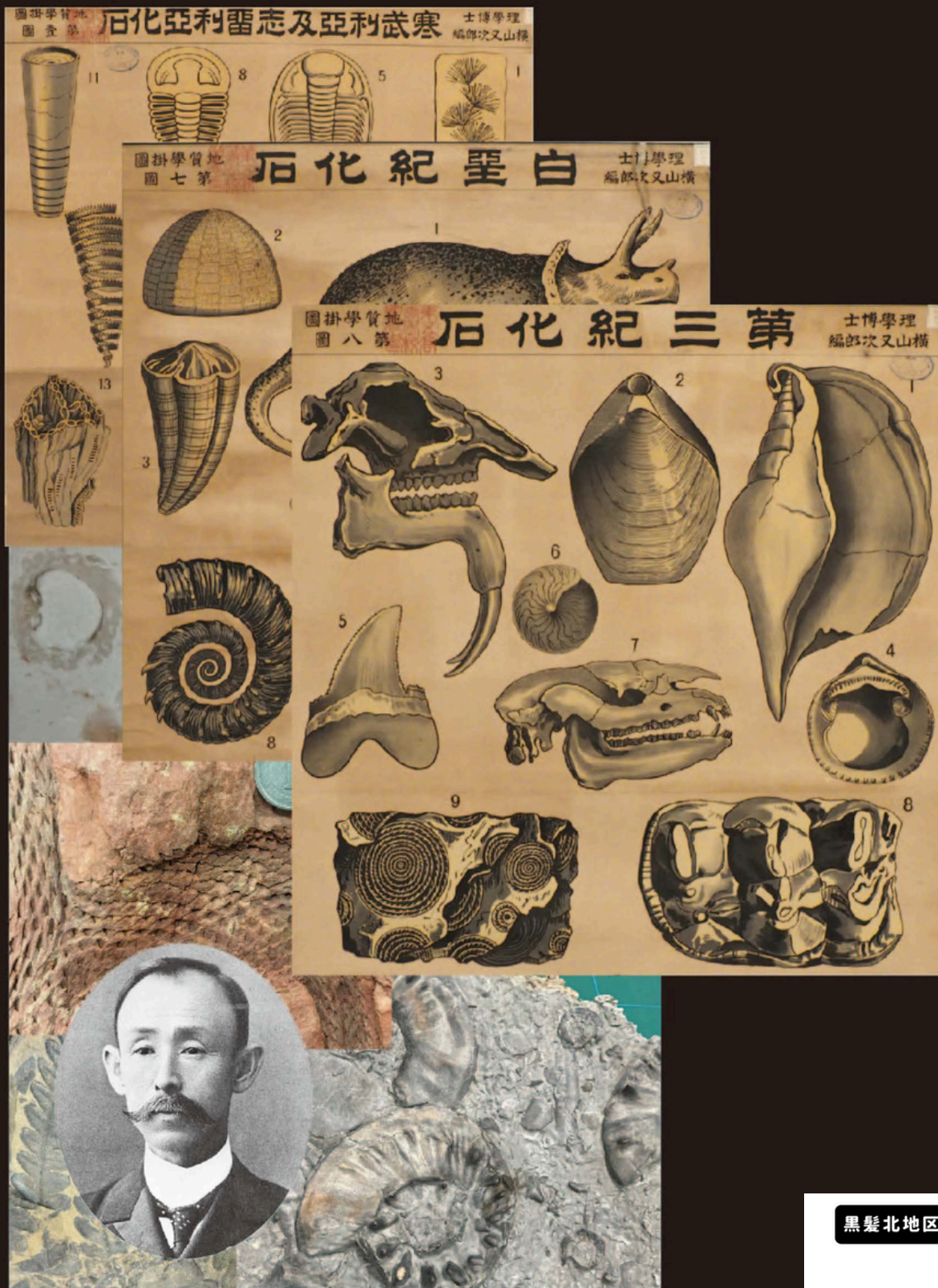


明治の地質学掛図と 描かれて いる化石



写真（横山又二郎）：東京大学総合研究博物館提供

令和7年11月1日(土)
～12月26日(金)

展示会場 熊本大学化学実験場
(熊本市中央区黒髪2丁目40-1)

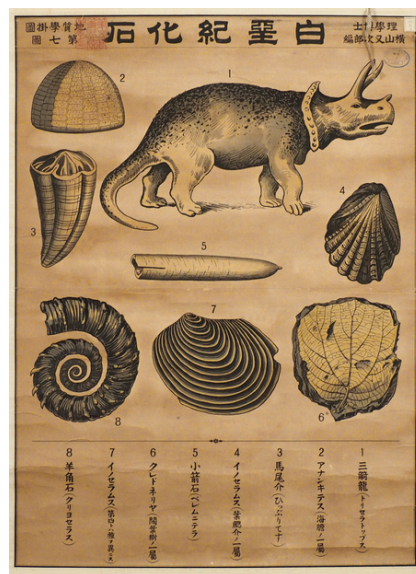
開館時間 10:00～16:00 火曜日休館



地質学掛図

地質学掛図は、明治35年（1902年）頃、東京帝国大学の横山又次郎博士によって編集および出版されました。この掛図には、示準性や示相性が高く、地層の対比や古環境を検討する上で重要な化石が地質年代ごとに図示され、全8巻からなっています。

現存する地質学掛図について、旧制第一高等学校から第五高等学校まで調査した結果、東京大学には作成段階で描かれたと考えられる図、京都大学には第参図・第五図・第六図を除く5巻が保存されているだけで、全巻保存されているのは、熊本大学のみの可能性が高いことが明らかになりました。



掛図と実物標本



今回「地質学掛図」全8巻とともに、掛図に描かれている化石の実物や写真などを展示します。

化石標本は、古生代前期の三葉虫やサンゴ、石炭紀や三畳紀の植物化石、中生代のアンモナイトやイノセラムス、厚歯二枚貝、脊椎動物の顎や歯の化石などを展示しています。

左の写真は、ナウマンゾウの下顎の化石です。旧制第五高等学校のラベルが付いています。

化学実験場

会場となっている化学実験場は、明治22年（1889年）に建設された煉瓦造の建物です。化学の授業で実験を行うために設けられた教室棟であり、実験の内容が観察し易いよう傾斜のある座席が設けられた「階段教室」や、実験の際に発生する有毒ガスを廃棄する仕組みを備えた「ドラフトチャンバー」が残されています。

重要文化財に指定されており、日本化学会の化学遺産の認定も受けています。通常は公開されていない建物です。ぜひこの機会にお越しください。

